

〈論文〉

# SNS チャットの会話における 母語話者のスタンプの利用に関する 日韓比較

倉田 芳 弥

## 要 旨

本研究は、日本語母語場面及び韓国語母語場面の SNS チャットの会話におけるスタンプの利用の実態を明らかにすることを目的とし、頻度、機能、種類の点から分析を行った。その結果、頻度、機能、種類のいずれも日本語母語場面と韓国語母語場面では違いが見られた。頻度については、日本語母語場面の方が韓国語母語場面よりも多く用いていた。機能については、「代替」は日本語母語場面の方が、「補足」は韓国語母語場面の方がより多く使われ、また「感情表出」と「情報伝達」のスタンプでは両場面共に「感情表出」の方が多いものの、韓国語母語場面の方が有意に多くの「感情表出」のスタンプが使用されていることがわかった。種類については、日本語母語場面の方が文字付きスタンプを、韓国語母語場面の方が文字なしスタンプをより多く使うことが明らかになった。以上から、日本語母語場面ではスタンプが言語メッセージに「代替」するものとして使われる傾向が見られ、単なる「感情表出」に留まらず、文字付きのスタンプを多用して「情報伝達」を行い、SNS チャットのコミュニケーションにおいてスタンプの独立性がより高い様子が窺える。一方、韓国語母語場面では、スタンプは言語メッセージと共に用いて感情を「補足」するものとして使われる傾向が見られ、スタンプが付随的な役割を果たしている様子が見られた。

キーワード：LINE, KakaoTalk, スタンプ, 日本語母語場面, 韓国語母語場面

## 1. はじめに

近年の目覚ましいソーシャル・ネットワーキング・サービス (Social Networking Service : 以下, SNS) の発展により, 人々のコミュニケーションの様相も変貌しつつある。SNS を用いたコミュニケーションは多様化し, 匿名性の高いコミュニケーションが多く行われている一方, 匿名性の低いコミュニケーションも SNS を介して広く行われるようになった。SNS の一つである LINE や KakaoTalk といった SNS チャットアプリは, 文字チャットを主とした匿名性の低いコミュニケーションツールとして, 若い世代だけでなく広く利用されている。

LINE や KakaoTalk などの SNS チャットの特徴として, スタンプを用いたビジュアル的なコミュニケーションが指摘されている (西川・中村 2015, 岡本・服部 2017, 三宅 2019, <sup>ホ</sup>奇 2016 他)。三宅 (2011) は, 「ことばが特定のメディアで使われるとき, そのメディア特性が何らかの形で影響を及ぼす」 (p. 22) と指摘しており, 新しい SNS チャットにおけるコミュニケーションは, メディアの特性が影響し, 対面とはまた異なるコミュニケーションが行われていると考えられるが, そこでのコミュニケーションの実態が十分に明らかにされたとは言い難い。また母語の違いによって SNS チャットの会話のスタイルが異なることは明らかにされている (李 2017, 楊ほか 2018, 倉田 2022a) が, そのような視点からの研究は限られており解明されていない点も多い。

そこで, 本研究では, SNS チャットに特徴的だとされるスタンプを用いた新しいコミュニケーションの解明を目指し, 日本語母語場面及び韓国語母語場面の SNS チャットの会話を対象とし, 日本語母語話者の用いるスタンプと韓国語母語話者の用いるスタンプの異同を明らかにする。

## 2. 先行研究

### 2.1 日本語母語場面と他の母語場面の SNS チャットの会話の比較研究

SNS チャットの会話を分析対象とし、日本語母語場面と他の母語場面と比較した研究は限られている（李 2017, 楊ほか 2018, 倉田 2022a）。

李（2017）は、日本語母語場面と韓国語母語場面を分析対象とし、SNS チャットの会話の終結部の構造の特徴を明らかにした。李（2017）は、日本語母語場面、韓国語母語場面共に終結部がないものがあり対面場面とは異なるスタイルが見られたこと、韓国語母語場面の方が、拡大型という展開パターンが多く見られ、積極的に相互交流しながらチャットを終結していたことなどを指摘している。

楊ほか（2018）は、日本語と中国語の SNS チャットの文字テキストを分析し、SNS チャットの会話においても、日本語では共感構築的側面の強いメッセージが多く見られ、中国語では情報交換的側面の強い会話が維持されていたことから、SNS チャットの会話においても中日間のコミュニケーションスタイルの相違が見られたとしている。また、楊ほか（2018）はデータの観察から母語の違いによりスタンプの使用についても違いがあると述べ、スタンプなどビジュアル的表現の対照研究の必要性を指摘している。

倉田（2022a）は、日本語母語場面と韓国語母語場面の SNS チャットの会話を分析対象として、相づちの表現形式について分析している。倉田（2022a）は、日本語母語場面では具体性の高い相づちが多く、話し手の話に積極的に関与する共話的な特徴が見られ、韓国語母語場面では、即時的に簡潔に相づちを送信し、話し手の話を遮らず話し手と聞き手の立場を明確にする対話的な特徴が見られたと述べている。

これらの研究から、SNS チャットの会話にも母語の違いによるコミュ

ニケーションスタイルの違いがあること、また対面場面とは異なるコミュニケーションスタイルが見られることが明らかにされている。

## 2.2 SNS チャットのスタンプの研究

SNS チャットのスタンプの研究は、日本語母語場面では質的な分析により行われている（西川・中村 2015, 森本 2016, 岡本・服部 2017, 三宅 2019 等）。また韓国語のスタンプの研究にはスタンプの文脈による感情表現の特徴とその効率性についてアンケート調査を行った<sup>ヤン</sup>양ほか（2017）やスタンプの利用動機に与える要因について調べた<sup>イ</sup>이（2018）などがあるが、いずれも SNS チャットの会話をデータとしていない。韓国語母語場面の SNS チャットの会話を分析対象とした研究としては<sup>ホ</sup>호（2016）等が見られる。

LINE のコミュニケーションの特性についてまとめた西川・中村（2015）と、LINE における依頼談話の特徴と配慮言語行動について分析した三宅（2019）はどちらもスタンプの持つ多義性について言及している。西川・中村（2015）は同じスタンプを別のニュアンスで多用しており、しかも誤解なく理解されると述べており、スタンプ単体では意味が分かりづらいスタンプに文を付加することで、汎用性が高くなっていたとしている。一方三宅（2019）はビジュアル性に富むスタンプにより多彩な感情表現が可能であり、異なる文脈で使われる文字なしスタンプは文脈から意味をくみ取り解釈する必要があるが、文字付きスタンプが増加し、意味の曖昧性は比較的少なくなっているとしている。

森本（2016）は、LINE, Viber, KakaoTalk 等の SNS チャットの機能について分析した。森本（2016）は、SNS チャットは非対面であることから、非言語情報が欠落しており、スタンプは対面における非言語コミュニケーションの役割を果たしているとして、表情の役割とジェスチャーの役割を挙げている。ジェスチャーについては、言葉に置き換え可能でそれ

自体で何らかの事柄を表す『表象動作』と、発話と共に用いられて何かを指し示したり強調したりする『例示動作』の役割が見られることを指摘している。

岡本・服部 (2017) は、LINE を「ビジュアルコミュニケーション」として捉え、スタンプの分析を通して参加者が LINE のスタンプを会話の秩序の維持と相互行為の組織化のリソースとして利用しているとしている。またスタンプに含まれる文字については、話題の終了や全体構造としての終結を共同構築するためのものが多いとしている。

ホ (2016) は韓国語母語場면을対象とし、スタンプを含むエモティコンの使用について分析している。ホ (2016) は、エモティコンを符号や記号、数字などを利用して作った「組み合わせ型絵文字」(例：^^, @.@), ハングルの文字を組み合わせで作った「ハングル字母絵文字」(例：ㅠ.ㅠ, ㅇㅂㅇ), スタンプに相当する「完成型絵文字」の3種類に分類し、使用率等を調べている。その結果、最も多いのは「ハングル字母絵文字」で、スタンプはエモティコン全体の2割弱であったという。これはスタンプを送信するよりもハングル文字を利用する方が容易で、より手軽に自分の感情を表現し、対話の雰囲気を持しているためだとしている。

次に、接触場면을対象としたスタンプの研究としては、日韓接触場면을対象とした倉田 (2023) がある。倉田 (2023) はこれまでのスタンプの研究が主に質的な研究により展開されてきたことを指摘し、日韓接触場面の日本語母語話者と韓国人非母語話者の用いるスタンプを頻度、機能、種類の観点から量的・質的に分析している。倉田 (2023) によると、日韓接触場面の SNS チャットの会話において、日本語母語話者と韓国人非母語話者のスタンプの利用頻度と機能には違いが見られなかったが、文字付きスタンプか文字なしスタンプかという種類についてのみ違いが見られたという。日本語母語話者の方が多くの文字付きスタンプを使用するという結果から倉田 (2023) は、文字付きスタンプという言語的側面が関わるところ

においてのみ違いが見られたとし、接触場面における非母語話者性がスタンプに表れた可能性があるとして述べている。

以上のように日本語母語場面におけるスタンプの機能や接触場面における日本語母語話者と韓国人非母語話者のスタンプの利用の違いが明らかになっている。しかし、日本語母語場面と他の母語場面を比較したスタンプの研究はなく、日本語母語場면을対象とした研究については量的に分析した研究も見られない。また、倉田（2023）で見られた SNS チャットの会話の日本語母語話者と韓国人非母語話者の違いが、韓国人非母語話者の日本語の能力によるものか、あるいは、韓国語母語場面の会話のスタイルの影響によるものかという点については明らかにされていない。そこで本研究では、SNS チャットを介したコミュニケーションの解明を目指し、日本語母語場面と韓国語母語場面の SNS チャットの会話を分析対象として、両場面で用いられるスタンプに焦点を当て量的分析及び質的分析を行う。

### 3. 研究目的及び研究課題

本研究は、日本語母語場面及び韓国語母語場面の SNS チャットの会話を対象とし、スタンプの利用の特徴について頻度、機能、種類の観点から分析し、SNS チャットの会話の特徴の一端を明らかにすることを目的とする。

課題 1：日本語母語場面及び韓国語母語場面におけるスタンプの頻度の違いは見られるか。

課題 2：日本語母語場面及び韓国語母語場面におけるスタンプの機能の違いは見られるか。

課題 3：日本語母語場面及び韓国語母語場面におけるスタンプの種類の違いは見られるか。

## 4. 分析方法

### 4.1 分析データ

本研究は、2016～2018年に行われた一対一の SNS チャットをデータとする。日本語母語場面は LINE を用いた文字チャットを、韓国語母語場面は LINE と同等の機能を有する KakaoTalk を用いた文字チャットをデータとした。日本語母語場面は日本語母語話者 19 名 (JNS1～19) による 10 組 (2962 メッセージ)、韓国語母語場面は韓国語母語話者 20 名 (KNS1～20) による 10 組 (3000 メッセージ) を分析対象とした。調査対象者の年齢は 19～23 歳であり、データをできる限り統制するため、全員女性友人同士とした。また収集データの量はペアにより異なるため、各組、直近の 300 メッセージ<sup>(1)</sup>を調査対象データとした。メッセージは、一つの吹き出しを 1 メッセージとし、写真、スタンプも 1 メッセージとしている。データは、既に行ったものについて提供可能なものを提供してもらったため、自然会話であり、会話の状況や話題<sup>(2)</sup>のコントロール等は一切行っていない。

### 4.2 課題別の分析方法

#### 4.2.1 スタンプの頻度 (課題 1)

課題 1 では、スタンプの頻度について日本語母語場面と韓国語母語場面の違いが見られるかどうかを調べる。スタンプの頻度は、倉田 (2023) に従い、100 メッセージ当たりのスタンプの送信数とする。日本語母語場面、韓国語母語場面共に調査対象者ごとに 100 メッセージ当たりのスタンプの送信数を求め、日本語母語場面と韓国語母語場面のスタンプの頻度に統計上の有意差が見られるかどうかを調べるため  $t$  検定を行う。

#### 4.2.2 スタンプの機能 (課題 2)

課題 2 では、機能の分類を行い、その特徴を探る。まず、対面の非言語行動の機能の枠組みを基にスタンプの機能の分類を行う。スタンプの機能の枠組みを示した倉田 (2003) は、対面の非言語行動の機能の枠組みを示した Ekman (1965)<sup>(3)</sup> 及び八代ほか (1998)<sup>(4)</sup> を参考とし、「繰り返し」、「補足」、「矛盾」、「代替」、「会話の流れ」という五つの機能をスタンプの機能の分析枠組みとして分析している。





本研究は、Ekman (1965)、八代ほか (1998) 及び倉田 (2023) を参考にし、表 1 の通り四つの機能をスタンプの機能の分析枠組みとする。倉田 (2023) の枠組みの「矛盾」は言語メッセージに対して矛盾するスタンプを送信して補足するというものであり、「補足」のカテゴリーに含まれるため、本研究では「矛盾」のカテゴリーは設けない。

分析の手順としては、表 1 のスタンプの機能の枠組みを用いて、本データに見られたスタンプの機能を前後の文脈も考慮して分類し、日本語母語場面、韓国語母語場面別に構成比を求め、その特徴を見る。また、両場面のスタンプの機能の使用傾向に、統計上の有意差が見られるかどうかを調べるため、カイ二乗検定を行う。

次に、非言語情報の欠落を補い、感情を表現する表情の役割を担う (森本 2016) と言われているスタンプが、実際にどの程度感情を表出するという役割を担っているか調べるため、全スタンプを「感情表出」と「情報伝達」に分類し、その特徴を見る。倉田 (2023) は、Ekman (1965) の「繰り返し」<sup>(5)</sup> を参考に、「繰り返し」と「補足」についてそれぞれ下位分類として「感情表出」と「情報伝達」を設けている。しかし、Ekman (1965) は、非言語的な感情表現、道具を使った行為、ジェスチャー、描写はすべて言語的メッセージの一部の代用として使用できるとしており、「代替」についても「感情表出」と「情報伝達」を認めている。そこで本研究では「感情表出」と「情報伝達」を「繰り返し」と「補足」



表1 スタンプの機能の定義及び例

機能	定義	例
繰り返し	<p>スタンプを言語メッセージの前後に配置し、言語メッセージと同様の内容を繰り返す機能。</p> <p>例：「がんばらねば、、、！」という言語メッセージを送信した後で、縄跳びをしているうさぎのイラストに「がんばる！」という文字が付いたスタンプを送信する。</p>	
補足	<p>スタンプを言語メッセージの前後に配置し、言語メッセージの内容に対する感情や情報などを補足する機能。</p> <p>例：「あと値引きしてくれてありがとう」と言語メッセージを送った後で笑顔の犬とハートのスタンプを送信し、感情を補足する。</p>	
代替	<p>言語メッセージの特定の単語や表現を送信する代わりにスタンプを送信し、感情や情報を伝達したり、応答したりするなど、言語メッセージの代替として機能するもの。</p> <p>例：相手の「さきに歌ってる」という言語メッセージに対して、「了解」のジェスチャーをする女性のイラストに「がってん承知之助」という文字が付いたスタンプを送信し、了解の意を伝達する。</p>	
会話の流れ	<p>コミュニケーション行動の開始や終了あるいは維持するものとしてスタンプが機能するもの。</p> <p>例：相手の言語メッセージとスタンプの送信に対して言語メッセージは送信せず、相手の笑顔とハートのスタンプに対して、笑顔とハートのスタンプを送信し、スタンプによる隣接ペアを成立させることで会話を終結させる。</p>	

※例は全て本研究のデータによるものである。

に限った下位分類とはせず、全てのスタンプについて「感情表出」と「情報伝達」に分類し、スタンプがどの程度「感情表出」の役割を担っているのかを明らかにする。本研究では、倉田（2023）に従い「情報伝達」には、「感情表出」以外の「動作」、「出来事」、「物事」などが該当するものとして分類する。

分析の手順としては、まず日本語母語場面と韓国語母語場面のスタンプを前後の文脈も考慮に入れ「感情表出」と「情報伝達」に分類する。次に構成比を求め、その特徴を見る。そして、両者のスタンプの使用傾向に、統計上の有意差が見られるかどうかを調べるため、カイ二乗検定を行う。

### 4.2.3 スタンプの種類（課題3）

課題3では、スタンプの種類として、文字付きスタンプと文字なしスタンプ（三宅2019）に分類し、日本語母語場面、韓国語母語場面別に構成比を求めてその特徴を見る。また、両場面の使用傾向に統計上の有意差が見られるかどうかについて、カイ二乗検定により調べる。さらに意味の曖昧性が低い（三宅2019）とされる文字付きスタンプの特徴を明らかにするため、文字付き・文字なしの種類別に課題2の四つの機能の枠組みに従って分類し、その特徴を見る。

## 5. 結果と考察

### 5.1 スタンプの頻度（課題1）

#### 5.1.1 結果

日本語母語場面のスタンプの回数は、総メッセージ2962中233回であるのに対し、韓国語母語場面のスタンプの回数は、総メッセージ3000中104回であった。日本語母語場面のスタンプの頻度は、100メッセージ当たり7.9回（ $Max = 33.3$ ,  $Min = 0.6$ ）、韓国語母語場面のスタンプの頻度は

100 メッセージ当たり 3.3 回 ( $Max = 14.8, Min = 0$ ) と日本語母語場面の方がスタンプの頻度が高いことが分かる。そこで日本語母語場面と韓国語母語場面のスタンプの頻度について  $t$  検定を行ったところ、有意差が見られた ( $t(38) = 2.19, p < .05$ )。

表2 スタンプの頻度 (100 メッセージ当たりの回数)

	日本語母語場面 $M (SD)$	韓国語母語場面 $M (SD)$	$t$ 値
100 メッセージ当たりの スタンプの頻度の平均値	7.9 回 (8.1)	3.3 回 (4.5)	2.19

### 5.1.2 考察

スタンプの頻度は、日本語母語場面の方が韓国語母語場面よりも有意に多いという結果が見られた。日本語母語場面と韓国語母語場面で頻度に違いが見られた一つの要因としては、韓国語母語場面にはスタンプを一切使わない人が多いということが挙げられる。韓国語母語話者 20 名中 8 名がスタンプの使用回数が 0 回であったのに対し、日本語母語話者の場合、スタンプの使用回数が 0 回の参加者はいなかった。以下に、スタンプの頻度の高かった日本語母語場面のペア (JNS13 : 14.6 回, JNS14 : 9.8 回) の会話と、二人ともスタンプを使用していない韓国語母語場面のペアの会話から「予定が合わない」という場面を取り上げて比較する (会話例 1, 2)。

日本語母語場面では、JNS14 が、予定が合わないので延期することを泣き顔の絵文字を使用して提案すると JNS13 が「号泣」と文字の入ったウサギなどが泣いているスタンプを送信し、それに対し、JNS14 も泣いているキャラクターのスタンプを送信している。また JNS14 は続けて「わたし行きたいとこリスト作って備えとくね」(248) と言語メッセージを送信した後で、さらにスタンプを送信している。一方、韓国語母語場面を見ると、予定が合わないことが分かる KNS7 は「; ;」という泣いている顔

文字を言語メッセージと一緒に送信し (85), KNS8 も泣いていることを表す「ㄸㄸ」を言語メッセージと一緒に送信している (87, 89)。さらに KNS7 は KNS8 の 89 のメッセージに対して 90 で笑い声を表現する「ㅋㅋㅋ」を送信している。

### 会話例 1 スタンプの頻度が多い例 (日本語母語場面)

- 245 0:00 JNS14 わあああそっか〜(😭)(😭)(😭)  
ほんとあわないね(😞)
- うん! 10月入ってからいこ!!♡
- 246 0:04 JNS13 [スタンプ]
- 247 0:38 JNS14 [スタンプ]
- 248 0:38 JNS14 わたし行きたいとこリスト作って  
備えとくね
- 249 0:39 JNS14 [スタンプ]

※左から、メッセージ番号、送信時間、メッセージ送信者、送信内容を表す。会話例は原文のままである (以下の会話例も同様)。



### 会話例 2 スタンプの使用がなかった例 (韓国語母語場面)

- 83 01:22 KNS8 내일 5 교시에 약속있고      明日 5 時限目に約束があって  
저녁약속이라                              夕飯の約束だから
- 84 01:22 KNS8 그사이는 비어                              その間は空いている
- 85 01:22 KNS7 저녁약속이구나 ;ㅁ;                              夕飯の約束か ;ㅁ; ;
- 86 01:22 KNS7 나 78 있어서 시간 애매하                              私 78 あるから時間曖昧かも  
겠다
- 87 01:22 KNS8 내일○○언니 보기로해                              明日○○お姉さんと会うこと  
서ㄸㄸ    なっててㄸㄸ
- 88 01:22 KNS7 아하...    ああ...
- 89 01:22 KNS8 미안ㄸㄸ    ごめんㄸㄸ
- 90 01:22 KNS7 응응 아냐ㅋㅋㅋ    うんうん いや www

日本語母語場面も韓国語母語場面も言語メッセージで伝わらない「悲しい」という感情を言語メッセージ以外で伝達しているという点は共通している。日本語母語場面では、「泣いている」スタンプに対してもう一方の参加者も「泣いている」スタンプを送信し、スタンプによる隣接ペアを作って感情を共有した上で次のメッセージを送信している。このようなスタンプの用い方はスタンプの頻度が高くなる一つの要因として考えられる。

一方、韓国語母語場面では顔文字と「ㅠㅠ」が使われている。このように韓国語母語場面でスタンプの頻度が低い要因の一つとしてはチャットの同期性の程度が高いことの影響が考えられる。倉田 (2022b) は、1 分当たりの送信メッセージ数の比較から日本語母語場面よりも韓国語母語場面の方が、同期性が高いとしている。会話例 2 を見るとメッセージは全て 1 時 22 分に送信されており、短いメッセージを双方がすばやく送信し合う同期性の高いやりとりであることが分かる。このようにやりとりが速く行われる場合、即時的に反応を示す必要がある。<sup>ホ</sup> (2016) は、ハングルを使った顔文字はスタンプよりも容易に送信できるとしているが、即時の反応を示すためにスタンプの代わりに顔文字や「ㅠㅠ」や「ㄱ」を選択した結果、韓国語母語場面ではスタンプの頻度が低くなっている可能性が考えられる。この点については、日韓接触場面のスタンプを分析した倉田 (2023) も句末マーカースとして見られる絵文字や顔文字といったスタンプ以外のビジュアル的な要素や「!」, 「笑」の使い方がスタンプの頻度に影響している可能性を指摘している。今後、スタンプ以外の絵文字や顔文字といったビジュアル的な要素や「!」, 「笑」などを含めた詳細な分析が必要である。

## 5.2 スタンプの機能 (課題 2)

### 5.2.1 結果

スタンプの機能について、調べた結果を表 3 に示す。構成比について見

ると、日本語母語場面、韓国語母語場面共に最も多いのが「補足」、次に多いのが「代替」と共通している。日本語母語場面について見ると最も多い「補足」は45%、次に多い「代替」は29%、その次に多い「会話の流れ」は18%、「繰り返し」は最も少なく9%となっている。韓国語母語場面について見ると、最も多い「補足」は63%と半数以上を占め、次に多い「代替」は17%であり、「繰り返し」と「会話の流れ」はどちらも10%であった。

日本語母語場面と韓国語母語場面の機能の使用傾向に統計上の有意差が見られるか、カイ二乗検定を行ったところ、有意差が認められた ( $\chi^2(3) = 11.645, p < .01$ )。残差分析の結果 (表4参照)、「補足」と「代替」に有意差が見られ、「補足」は韓国語母語場面の方が有意に多く、「代替」は日本語母語場面の方が有意に多かった。

表3 スタンプの機能の割合及び頻度

	繰り返し	補足	代替	会話の流れ	計
日本語母語場面	9% (20回)	45% (105回)	29% (67回)	18% (41回)	100% (233回)
韓国語母語場面	10% (10回)	65% (66回)	17% (18回)	10% (10回)	100% (104回)

※構成比については小数第1位を四捨五入して表記しており、各項目の合計が100%にならない場合がある (以下の表の構成比についても同様)。

表4 スタンプの機能の残差分析の結果

	繰り返し	補足	代替	会話の流れ
日本語母語場面	-0.307	-3.12**	2.235*	1.888
韓国語母語場面	0.307	3.12**	-2.235*	-1.888

※ \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

次に日本語母語場面と韓国語母語場面において用いられるスタンプを

「感情表出」と「情報伝達」に分類した結果を表5に示す。日本語母語場面の場合、「感情表出」のスタンプは60%、「情報伝達」のスタンプは40%であるのに対し、韓国語母語場面の場合、「感情表出」のスタンプは73%、「情報伝達」のスタンプは27%であった。日本語母語場面も韓国語母語場面も「感情表出」のスタンプが用いられることが多いという傾向が見られた。「感情表出」のスタンプと「情報伝達」のスタンプの使用傾向に有意差が見られるかカイ二乗検定を行ったところ、有意差が認められ ( $\chi^2(1) = 5.041, p < .05$ )、「情報伝達」は日本語母語場面の方がより多く、「感情表出」は韓国語母語場面の方がより多く用いられることが分かる(表6参照)。

表5 「感情表出」と「情報伝達」の割合及び頻度

	感情表出	情報伝達	計
日本語母語場面	60% (139回)	40% (94回)	100% (233回)
韓国語母語場面	73% (76回)	27% (28回)	100% (104回)

表6 「感情表出」と「情報伝達」の残差分析の結果

	感情表出	情報伝達
日本語母語場面	-2.368*	2.368*
韓国語母語場面	2.368*	-2.368*

※ \*  $p < .05$

### 5.2.2 考察

日本語母語場面と韓国語母語場面のスタンプの機能について見ると、「補足」が最も多いという点は共通しているものの、使用傾向には違いが見られ、「代替」については日本語母語場面の方がより多く、「補足」については韓国語母語場面の方がより多く使うことがわかった。また「感情表

出」のスタンプと「情報伝達」のスタンプについては、日本語母語場面も韓国語母語場面も「感情表出」のスタンプの方を多く使うものの、両場面の使用傾向は異なり、「感情表出」は韓国語母語場面の方がより多く、「情報伝達」は日本語母語場面の方がより多く用いることが明らかになった。日本語母語場面、韓国語母語場面共に、「補足」が最も多く、また、「感情表出」の方が「情報伝達」よりも多いということは、森本（2016）の指摘する非言語情報が欠落する中で、感情を伝達する手段としてスタンプが用いられるということが本データでも確認されたと言える。日本語母語場面と韓国語母語場面に共通して見られたことから、「感情表出」し言語メッセージを「補足」ということが、スタンプの基本的な機能であり、非言語情報が欠落するという SNS チャットの特性に対応していると考えられる。しかし一方で、上述の通り、日本語母語場面と韓国語母語場面ではスタンプの使用傾向に違いが見られた。そこで以下では、日本語母語場面の「代替」で「情報伝達」のスタンプの例（会話例 3）と韓国語母語場面の「補足」で「感情表出」のスタンプの例（会話例 4）を見る。

会話例 3 は、カラオケの約束をしている二人がカラオケ店に行く途中で送信したチャットのやりとりである。JNS11 はこの直前のメッセージで約束の時間に遅れることを送信している。JNS12 が 249 で「さきに歌ってる😊」と送信すると JNS11 は「了解」を意味するジェスチャーをしている女性と「がってん承知之助」という文字が付いたスタンプを送信し、了解したという「情報伝達」を行っている。JNS12 は 250 のスタンプによる応答を受け 251 で「わたしもいま電車のったけど」と自分の状況を伝え、さらに 252 で「508 だよー」とカラオケの部屋番号を伝えている。



### 会話例 3 「代替」の「情報伝達」のスタンプの例（日本語母語場面）

- 249 10:57 JNS12 さきに歌ってる🎵
- 250 11:01 JNS11 [スタンプ]
- 251 11:02 JNS12 わたしもいま電車の  
のったけど
- 252 11:18 JNS12 508だよー



「代替」は言語メッセージを送信する代わりにスタンプを送信して反応するものであるため、具体的な意味内容を伴う「情報伝達」であることが多い。日本語母語場面は「代替」のスタンプ 67 回のうち、「感情表出」は 24 回、「情報伝達」43 回と「情報伝達」の方が多く、言語メッセージに代わってスタンプで必要な情報伝達をしていることが分かる。

次に韓国語母語場面の「補足」のスタンプの例を見る。会話例 4 では、大学の授業の単位について話しているところである。KNS11 は 37 で「はあ」とため息を送信し、40 で「少なくとも 15 は埋めなきゃ...」と履修単位数について送信した後、41 で泣いている表情のスタンプを送信している。このように言語メッセージを「補足」するスタンプは、韓国語母語場面の方が有意に多く用いられており、言語メッセージを補足するため、韓国語母語場面では「感情表出」のスタンプを多く用いられる傾向が見られた。韓国語母語場面の「補足」66 回のうち、「感情表出」のスタンプは 51 回、「情報伝達」のスタンプは 15 回であり、「感情表出」のスタンプを用いて、言語メッセージを「補足」している様子が窺える。

会話例4 「補足」の「感情表出」のスタンプの例（韓国語母語場面）

- |     |      |       |                              |                                 |
|-----|------|-------|------------------------------|---------------------------------|
| 37  | 6:32 | KNS11 | 하.....                       | はあ.....                         |
| 38  | 6:32 | KNS11 | 65/120 들었음                   | 65/120 取った                      |
| 39  | 6:32 | KNS11 | 졸업학점                         | 卒業単位                            |
| 40  | 6:32 | KNS11 | 못해도 15는 채워야해...              | 少なくとも 15 は埋めなきゃ...              |
| →41 | 6:32 | KNS11 | [スタンプ]                       |                                 |
| 42  | 6:33 | KNS10 | 난 몇이더라.... 기억상 80/130 인듯.... | 私はいくつ だっけ.... 記憶では 80/130 だ.... |



以上のように、日本語母語場面は、韓国語母語場面と比較すると「代替」のスタンプが多く、言語メッセージに代わってスタンプのみで「情報伝達」の役割を担う傾向が見られるのに対し、韓国語母語場面ではスタンプは言語メッセージを「補足」するものとして使用され、言語メッセージだけでは伝わらない「感情表出」の役割を担う傾向が見られた。落合(2019)は、従来型のエモティコンに比べると、スタンプは、より独立した機能を持つ視覚的表現として用いられていることが推測されると述べているが、本研究結果を見ると、独立性は一樣でないことが分かる。スタンプの用い方について独立性の観点から見ると、韓国語母語場面は、言語メッセージによるコミュニケーションを感情の側面から「補足」する機能が強く、より付随的であるのに対し、日本語母語場面は、そのようなスタンプ本来の機能を持ちつつもスタンプのみでコミュニケーションを進めるという、より独立性の高い側面も持ち合わせていると言える。

### 5.3 スタンプの種類 (課題3)

#### 5.3.1 結果

文字付きスタンプと文字なしスタンプに分類した結果を表7に示す。日本語母語場面について見ると、文字付きスタンプの占める割合は62%、文字なしスタンプは38%と文字付きスタンプの方が多く用いられている。一方韓国語母語場面を見ると、文字付きスタンプの割合は24%、文字なしスタンプの割合は76%と文字なしスタンプの方が多く用いられている。

次に日本語母語場面と韓国語母語場面の文字付きスタンプと文字なしスタンプの使用傾向に有意差が見られるかカイ二乗検定で調べたところ、有意差が見られた ( $\chi^2(1) = 40.445, p < .01$ )。日本語母語場面と韓国語母語場面の文字付きスタンプと文字なしスタンプの使用傾向は異なり、文字付きスタンプは日本語母語場面の方が有意に多く、文字なしスタンプは韓国語母語場面の方が有意に多いことが示された (表8参照)。

表7 文字付きスタンプと文字なしスタンプの割合及び頻度

	文字付き	文字なし	計
日本語母語場面	62% (145回)	38% (88回)	100% (233回)
韓国語母語場面	24% (25回)	76% (79回)	100% (104回)

表8 スタンプの文字の有無の残差分析の結果

	文字付き	文字なし
日本語母語場面	6.478**	-6.478**
韓国語母語場面	-6.478**	6.478**

※ \*\*  $p < .01$

続いて、文字付きスタンプの意味の曖昧性の低さがスタンプの機能にどのように影響しているのかを調べるため、文字付きスタンプと文字なしスタンプの内訳として、表1のスタンプの機能の枠組みにより分類したものを以下に示す(表9, 10)。日本語母語場面も韓国語母語場面共に、文字なしスタンプと比べ文字付きスタンプの「代替」の占める割合の方が高い。日本語母語場面の「代替」について見ると「文字なし」の場合は19%であるのに対して「文字付き」は34%と占める割合が高い。韓国語母語場面の「代替」について見ると「文字なし」が15%であるのに対して「文字付き」は24%と文字付きの方が、「代替」の占める割合が高くなっている。

表9 文字の有無別スタンプの機能の割合及び頻度(日本語母語場面)

	繰り返し	補足	代替	会話の流れ	計
文字付き スタンプ	6% (8回)	45% (65回)	34% (50回)	15% (22回)	100% (145回)
文字なし スタンプ	14% (12回)	45% (40回)	19% (17回)	22% (19回)	100% (88回)

表10 文字の有無別スタンプの機能の割合及び頻度(韓国語母語場面)

	繰り返し	補足	代替	会話の流れ	計
文字付き スタンプ	4% (1回)	56% (14回)	24% (6回)	16% (4回)	100% (25回)
文字なし スタンプ	11% (9回)	66% (52回)	15% (12回)	8% (6回)	100% (79回)

### 5.3.2 考察

スタンプについて種類別に見ると文字付きスタンプは日本語母語場面で、文字なしスタンプは韓国語母語場面でより多く使われていた。文字付きスタンプの機能を見てみると、日本語母語場面も韓国語母語場面も文字

なしスタンプと比べて「代替」の占める割合が大きい。また文字付きスタンプの使用が有意に多かった日本語母語場面の「代替」について見ると、「代替」67回のうち、文字付きスタンプは50回、文字なしスタンプは17回と、文字付きスタンプの方が多い。三宅（2019）は、文字付きスタンプが増加したことにより、意味の曖昧性は比較的少なくなっていると述べているが、言語メッセージの「代替」としてスタンプを単独で送信する際に誤解なく送信できるよう、意味の曖昧性が低い文字付きスタンプが多く用いられたと考えられる。

日本語母語場面で文字付きスタンプがより多く用いられる理由の一つとして、韓国語母語場面より日本語母語場面の方が「代替」を多く用いることが考えられる（表3, 4参照）。日韓接触場面のスタンプを分析した倉田（2023）は、日本語母語話者の文字付きスタンプは「代替」の割合が最も大きく、言語メッセージの「代替」としてスタンプだけで意味を伝達する際に文字付きスタンプが用いられることが多いと指摘しているが、本研究においても同様の傾向が見られたと考えられる。

会話例5は日本語母語場面の「代替」の文字付きスタンプの例である。

#### 会話例5 「代替」の文字付きスタンプの例（日本語母語場面）

- 252 11:05 JNS13 後期、授業かぶらないよね... ?
- 253 14:15 JNS14 後期。。。たぶんかぶらないと思う(´\_`)
- 254 14:16 JNS14 時間割組めたら連絡するっ！
- 255 14:28 JNS13 [スタンプ]



ここでは後期の授業について話しており、JNS14が254で「時間割組めたら連絡するっ！」と言語メッセージを送信するとそれに対してJNS13

は「ありがとう～」という文字付きのスタンプを送信している。254 のメッセージに対して笑顔のスタンプだけで送信することも可能ではあるが、このように文字付きスタンプを利用することにより、「感謝」という意味をスタンプだけで明確に誤解なく送信することが可能となっている。

また倉田（2023）では、日韓接触場面の日本語母語話者と韓国人非母語話者を比較し、韓国人非母語話者の方が有意に文字付きスタンプの使用が少ないとしている。本データの結果を見ると、韓国語母語場面においても文字付きスタンプの使用は少ないため、韓国語母語場面におけるスタンプの利用のスタイルが影響し、日韓接触場面における韓国人非母語話者の文字付きスタンプの使用が少なくなった可能性が考えられる。

## 6. おわりに

本研究は、日本語母語場面と韓国語母語場面の SNS チャットの会話を対象としてスタンプの利用の実態を明らかにするため、スタンプの頻度、機能、種類の点から分析を行った。その結果、頻度、機能、種類のいずれも日本語母語場面と韓国語母語場面では違いが見られた。頻度については、韓国語母語場面よりも日本語母語場面の方がスタンプの頻度は高かった。機能については、言語メッセージを補う「補足」が両場面共に占める割合が最も高いという点では共通していたが、「代替」は日本語母語場面においてより多く用いられ、また「補足」は韓国語母語場面においてより多く用いられるという違いが見られた。また「感情表出」と「情報伝達」という観点からは、両場面共に「感情表出」の方が多く用いられているものの、両場面の使用傾向には違いが見られ、韓国語母語場面では日本語母語場面よりも「感情表出」のスタンプがより多く使用される傾向が見られ、日本語母語場面では韓国語母語場面より多くの「情報伝達」が用いられる傾向が見られた。また種類については、日本語母語場面では文字付き

スタンプが、韓国語母語場面では文字なしスタンプがより多く使われることが明らかになった。

本研究結果を見ると、言語メッセージを「感情表出」により「補足」という点は日本語母語場面と韓国語母語場面に共通しており、これがスタンプの基本的な役割であると考えられる。一方で母語により異なる傾向も見られた。日本語母語場面では、スタンプの頻度が高く、スタンプが言語メッセージに「代替」するものとして使われる傾向が見られ、単なる「感情表出」に留まらず、文字付きのスタンプを多用して「情報伝達」を行っており、SNS チャットのコミュニケーションにおいてスタンプの独立性がより高い様子が窺える。一方韓国語母語場面では、スタンプは言語メッセージと共に用いて感情を「補足」する傾向が見られ、SNS チャットのコミュニケーションにおいて付随的な役割を果たしている様子が見られた。

今後の課題としては、最新のデータを用いた分析の必要性が挙げられる。スタンプは、SNS チャットアプリの環境の影響も大きく、その状況は日々変化していると考えられる。そのため、最新のデータを用いた更なる分析が必要である。また、SNS チャットアプリによって使用可能なスタンプの種類、文字付きスタンプ数などが異なる可能性があり、そのような違いがスタンプの使用状況に影響を与えることも考えられる。そのため、SNS チャットアプリ別の利用可能なスタンプの状況などの調査も今後必要だと考えられる。そして、今回は分析対象をスタンプに絞って行ったが、スタンプの利用は、絵文字や顔文字などその他のビジュアル的な要素との関連が深いと考えられる。今後は、SNS チャットに見られるスタンプ以外のビジュアル的な要素も含め、マルチモーダル視点からの分析も必要である。

**【謝辞】**

本研究は、JSPS 科研費課題番号 16K02803 及び 21K00627 の助成を受けたものです。

#### 《注》

- (1) 日本語母語場面は1組のみ262メッセージだったため、日本語母語場面の分析対象は2962メッセージとなっている。
- (2) 日本語母語場面と韓国語母語場面の話題について大きく異なることを確認の上、データとして用いている。
- (3) Ekman (1965) は、言語行動に関連した非言語行動の機能として「repeating (繰り返し)」、「contradicting (矛盾)」、「substituting (代替)」、「reflecting the person's feeling about his verbal statement (発言に対する感情の表示)」、「reflecting changes in the relationship (関係性の変化の表示)」、「accenting (強調)」、「maintaining the communicative flow (コミュニケーションの流れの維持)」という七つの機能を挙げている。
- (4) 八代ほか (1998) は、Ekman (1965) の非言語行動の機能を、「関係性の変化の表示」を除く六つの機能、すなわち、「くり返し」、「矛盾」、「言語の代わり」、「言語の補足」、「アクセント」、「コミュニケーション行動の始めや終わり、流れをコントロール」にまとめている。
- (5) Ekman (1965) は、「繰り返し」について、言語行動が感情的な反応を記述している場合、非言語行動はその感情を繰り返すことができ、言語行動がある出来事や動作の過程を描写している場合、非言語行動はその出来事や動作を描写するものとなると説明している。

#### 参考文献

(日本語)

- 李涓丞 (2017) 「スマートフォンチャットの開始発話とその反応に関する日韓対照研究：構成要素と連鎖パターンを中心に」『人間文化創成科学論叢』20, 9-17.
- 岡本能里子・服部圭子 (2017) 「LINE のビジュアルコミュニケーション——スタンプ機能に注目した相互行為分析を中心に——」柳町智治・岡田みさを(編)『インタラクションと学習』ひつじ書房, 129-148.
- 落合哉人 (2019) 「LINE テキストチャットにおける分析単位の規定と接続表現の使用傾向」『筑波日本語研究』23, 83-112.
- 倉田芳弥 (2022a) 「日韓母語場面の LINE チャットの会話における相づちの特徴——共話と対話の観点から——」『拓殖大学語学研究』147, 25-53.



- 倉田 芳弥 (2022b) 「日韓接触場面の LINE チャットの会話における相づちの送信方法の分析 — 相づちの出現箇所に着目して —」, 『拓殖大学日本語教育研究』 7, 1-26.
- 倉田芳弥 (2023) 「日韓接触場面の LINE チャットの会話におけるスタンプの特徴 — 日本語母語話者と韓国人非母語話者の比較から —」 『拓殖大学日本語教育研究』 8, 55-78.
- 西川勇佑・中村雅子 (2015) 「LINE コミュニケーションの特性の分析」 『東京都市大学横浜キャンパス情報メディアジャーナル』 16, 47-57.
- 三宅和子 (2011) 「メディア言語研究の意義と日本語教育への応用可能性」 『日本語教育』 150, 19-33.
- 三宅和子 (2019) 「モバイル・メディアにおける配慮 — LINE の依頼談話の特徴 —」 山岡政紀編 『日本語配慮表現の原理と諸相』 くろしお出版, 163-180.
- 森本祥一 (2016) 「メッセージングアプリの機能がコミュニケーションにおいて果たす役割に関する一考察」 『情報科学研究所所報』 86, 19-24.
- 八代京子・町恵理子・小池浩子・吉田友子 (1998) 『異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる』 三修社
- 楊虹・佐々木泰子・倉田芳弥・加納なおみ・船戸はるな (2018) 「メッセージングアプリを利用したチャットの会話の日中比較」 『日本語教育・日本学研究 — 大学日語教育研究国際研討会論文集 (2017)』 華東理工大学出版社, 112-118.

(韓国語)

- 허상희 (2016) 「대학생의 카카오톡 언어 사용 분석」 『한글』 314, 103-143. (ホサンヒ (2016) 「大学生のカカオトーク言語使用分析」 『ハングル』 314, 103-143.)
- 양혜인, 이수진, 김수정 (2017) 「이모티콘 컨텍스트에 의한 감정 커뮤니케이션 연구 - 카카오톡 이모티콘을 중심으로 -」 『기초조형학연구』 18-3, 237-248. (ヤンヘイン・イスジン・キムスジョン (2017) 「エモティコンコンテキストによる感情コミュニケーションの研究 — カカオトークエモティコンを中心に —」 『基礎造形学研究』 18-3, 237-248.)
- 이종윤 (2018) 「카카오톡 이모티콘 이용 동기와 충족에 관한 연구」 『기초조형학연구』 19-1, 435-446. (イジョンユン (2018) 「カカオトークエモティコンの利用動機と満足度に関する研究」 『基礎造形学研究』 19-1, 435-446.)

(英語)

Ekman, P. (1965). Communication through nonverbal behavior: A Source of information about an interpersonal relationship. In S. S. Tomkins & C. E. Izard (Eds.), *Affect, Cognition and Personality* (pp.390-442). New York: Springer.

#### 付記

データの収集に先立ち、データ収集当時、筆者の所属大学内の倫理審査委員会に申請し、必要な手続きを完了している。

(原稿受付 2023年10月25日)